

平和の種、それは挨拶。

(原文)

青木 幸子 (17歳)

東京都

晃華学園高等学校

私が思う平和な世界は、誰も孤独にならない世界です。世界の現状を見れば、個人の孤独よりも戦争や飢餓、教育や医療に関する問題を解決することのほうが求められているかもしれません。しかし、今の若者に大きな世界を変える力はありません。お金も権力もなく、戦争反対の意見を発しても、大きな力が動くほどの結果は期待できません。では、こんなに無力な私たちはどうやって世界を平和にしていけば良いのでしょうか。私の提案は、身近な平和の実現です。そして、このために最も重要なことこそが、孤独な人を取り残さないことなのです。

孤独は様々な問題の種になります。代表的な例のひとつが、いじめです。なぜなら、「孤独を恐れること」がいじめの始まりだからです。

加害者は弱い者がいじめられるという事実をよく知っています。その上で孤独を恐れているからこそ、仲間を作って自分を強く見せようとし、弱い者を孤立させていじめるのです。この時、周りにいる子どもたちは、被害者の弱さと加害者の強さを目の当たりにすると、「いじめられることで訪れる孤独」を恐れます。そのため、強い者の見方をするか、元から知らないふりをする事が多くなります。加害者が持つ、孤独への恐怖がいじめの発端であると同時に、いじめをエスカレートさせるのも、周囲の人が持つ孤独への恐怖なのです。

学校や子どもたちの枠を超えた孤独は、社会的孤立と言い表せます。社会的孤立は、当事者を取り巻く環境への恐怖、精神的不安、場合によっては人間不信などにつながり、非常に深刻な問題を引き起こすこともあります。殺人事件の動機に「人間関係がうまくいかなかった」ということが挙げられているのを聞いたことがあるかもしれませんが、これも共同体との調和が取れないという一種の社会的孤立です。

このように、現在は子どもから大人まで、様々な人が孤立に悩まされていることは珍しくはありません。さて、少し考えてみてください。確かに国際社会における世界平和も大事です。ですが、孤独を抱えている人々が、たとえ身の回りに戦争や飢餓がなかったとしても、日常生活の中で平和な世界を感じる事ができるのでしょうか？ 私たちは、孤独な人から目を背けたままでいいのでしょうか？

私たちにできることを考えましょう。孤独な人を孤独なままにしないで、日常的で、誰にでもできて、最小限の努力で最大の効果が得られるもの。それは、挨拶です。挨拶をされて嬉しいなと思ったこ

とは誰にでもあると思います。それは、挨拶をすることに「私はあなたを見ているよ」「私とあなたは仲間だよ」「あなたは一人じゃないよ」という意味が少なからず含まれているからです。逆に、どこに行っても挨拶されず、誰からも声をかけられない世界では、非常に寂しく孤独に感じるでしょう。最近ではコロナ禍の影響で声を出さないことが多くなって、挨拶の声が少なくなったと感じます。ですが、コロナ禍明けの今だからこそ、挨拶をし合うことで孤独な人を取り残さないことが大事になります。

身近な平和を達成できない内に世界平和など達成できるはずがありません。この世にいる誰でも必ず心の中に、戦争の種を持っています。種を発芽させることが孤独だとするなら、種を平和の種に変える行為が人と共に生きることです。支え合い、愛を持って接し合うことが平和の実現のために大切なことなのです。

ぜひ一度、周りを見まわしてみてください。きっと前を向いてきりりとした表情をしている人がたくさんいるでしょう。ですが、その裏に、孤独に悲しんで泣いている顔は見えませんか。寄り添ってくれる人を探す、不安そうな顔は見えませんか。挨拶をすることで、平和の種を撒きましょう。孤独な人へ近づく勇気ある一歩が、平和を実現するための、大切な一歩です。世界中の人の、平和の種が大きく育つ日まで、みんなで声を掛け合いましょう。さあ、世界中の人に向けて、“Hello!”